施策展開	3-(1)-1	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	① 那覇港の整備						
加尔茂州	3-(1)-7	八川・初川を文える危局の登開	施策の小項目名	○那覇港の人流機能強化						
主な取組	更なる大型クル	更なる大型クルーズ船の受入体制の構築								
対応する主な課題	ど利便性や快適			ていないため、利用者は炎天下や雨天時に移動を強いられるな 歯化とともに、安全性・快適性・利便性の確保など観光客の受						

1 取組の概要 (P	lan)								
	取組内容		年度別計画						
クルーズ船利用者	がにおける、安全性・快適性・利便性	‡の確保及びクルーズ船誘	H29	H30	R元	R2	R3		
致に向けた取組強化	に向け、泊ふ頭岸壁における更なる したコンテナターミナルの岸壁延伸	る大型クルーズ船の受入、	泊埠頭8号岸壁における更なる大型クルーズ船の受け入れの取組						
の整備に向けた取組		クルーズ船にも 対応した、コンテ							
実施主体	国、那覇港管理	理組合	ナターミナルの 岸壁延伸整備						
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課	第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組							
				, and the second	<u>"</u>	The state of the s	· ·		

2 取組の	状況(Do)											
(1) 取組の進捗状況								(単位:千円)				
予算事業名 国直轄												
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画			
土は別源	夫肔力法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: 国において、第2クルーズバースの整備を 行った。			
国直轄	その他	-	-	-	-	_	_		OR4年度: 引き続き国において、第2クルーズバースの整備を行うとともに、令和4年度中の暫定供用に向け整備を推進する。			

予算事業名	航行安全調	 査									
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度		年度		和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
± 0-7/1/m/	JUNE 13 12	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: 2年度中の	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和   クルーズ船の寄港は無かった。	
県単等	委託	18, 211	_	19, 500	_	_			OR4年度: ズ船の寄港	関係機関と連携し、那覇港におけるクルー 再開に向けて受入体制の構築を図る。	
	治と語り早	<b>半段/- +\/+ 2</b>	ス 声 4> ス 十 罪	カリーブ							
活動指標名	票名 泊ふ頭8号岸壁における更なる大型クルーズ 船の受入の取組					R3年度		R3年度 決算見込	進捗状況	活動概要	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	額合計	進抄仏流	ウィズコロナを見据えた感染症拡大防止施 設の整備や「沖縄県クルーズ受入那覇・南部	
実績値	_	入出港要 領の策定	入出港要 領の改訂	沖縄県クルー ズ船受入那 覇・南部地域 協議会の実施	新型コロナウ イルス感染症 拡大防止施設 の整備	新型コロナウ イルス感染症 拡大防止施設 の整備	100.0%			地域協議会」を実施し、受入体制の構築を 図った他、新港ふ頭地区において、第2ク ルーズバースの整備を進めた。	
活動指標名	クルーズ船 ルの岸壁延	にも対応した 伸整備	こ、コンテナ	ターミナ	R3年度						
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
実績値	コンテナター ミナルの 岸壁延伸工事	コンテナター ミナルの 岸壁延伸工事 完了	-	_	-	_	100.0%	0	順調	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、クルーズ船の寄港の目途が立っていない 状況であるが、ウィズコロナを見据えた感染	
活動指標名	第2クルー	ズ岸壁等の整	整備に向けた	-取組		R3年度				防止対策施設の整備や協議会の実施等により 受入体制の構築を引き続き実施したととも に、第2クルーズバース整備の進捗を図っ	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			t=.	
実績値	-	国際旅客船 拠点形成港 湾の指定	第2クルー ズ岸壁等 の整備	第2クルー ズ岸壁等 の整備	第2クルー ズ岸壁等 の整備	第2クルー ズ岸壁等 の整備	100.0%				

(2)これまでの改善案の反映状況	
令和3年度の取組改善案	反映状況
・那覇クルーズターミナル等において新型コロナウイルス感染拡大防止対策に取 り組むとともに、第2クルーズバースの整備を推進する。	・ウィズコロナを見据えた感染防止対策施設の整備や協議会の実施等により受入 体制の構築を引き続き実施したとともに、第2クルーズバース整備の進捗を図った。

(1)推進上の留意点	(内部要因、	外部環境の変化)

〇内部要因

〇外部環境の変化

- ・令和元年度に那覇港が国際旅客船拠点形成港湾に指定された。
- ・第2クルーズバースの暫定供用を令和4年度中に予定している。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年2月以降、クルーズ船の寄港が途絶えている。
- ・国内クルーズについては、令和2年9月に国等から運行再開に向けたガイドライン等が示されたが、外国クルーズについては、未だ運行再開に向けたガイドライン等が示されていない。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・クルーズ船の寄港再開に向けて、那覇クルーズターミナル等において新型コロナウイルス感染拡大防止対策に取り組むとともに、関係機関や船社と連携し、第2 クルーズバースの整備推進を図る必要がある。

#### 様式1(主な取組)

#### 4 取組の改善案 (Action)

・当面は国内クルーズの受入再開に向け、受入方針や条件等について関係機関や船社との協議を行い、クルーズ受入体制の構築を図るとともに、日本への海外から の旅行者の入国制限の緩和・撤廃等の状況を踏まえつつ、県観光部局等の関係機関と連携し誘致活動を再開するとともに、受入体制の強化に取り組む。

施策展開	3-(1)-1	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	① 那覇港の整備							
心來政刑	3-(1)-7	八加・初加を又たる港湾の金浦	施策の小項目名	○那覇港の人流機能強化							
主な取組	那覇港コースタルリソ	那覇港コースタルリゾート・ウォーターフロント整備事業									
対応する主な課題	おり、利便性の			一の混在、台風時及び冬季風浪時の港内波浪等が問題となって 舶の大型化に対応した岸壁やふ頭用地、上屋等の充実、港湾貨							

# 1 取組の概要 (Plan) 取組内容 年度別計画 魅力ある観光リゾートとレクリエーションの地形形成を図るため、那覇港における海洋レクリエーション活動に対応したコースタルリゾート及びウォーターフロントの整備を促進する。 H29 H30 R元 R2 R3

実施主体 那覇港管理組合、浦添市 港湾計画改訂手続き 環境アセスの実施 担当部課【連絡先】 土木建築部港湾課 【098-866-2395】

#### 2 取組の状況 (Do) (1) 取組の進捗状況 (単位:千円) 予算事業名 那覇港コースタルリゾートウォーターフロント整備事業 令和3年度活動内容と令和4年度活動計画 R4年度 H29年度 H30年度 R元年度 R3年度 主な財源 実施方法 OR3年度: 港湾計画の改訂に向けた那覇港長期構想の 策定を行った。 決算額 決算見込額 決算額 決算額 決算額 当初予算額 主な財源 一括交付 OR4年度: 港湾計画改訂に向け、関係機関との調整を 進めて行く。 金(ハード) 委託 県単等 予算事業名 令和3年度活動内容と令和4年度活動計画 R4年度 H29年度 H30年度 R元年度 R2年度 R3年度 主な財源 実施方法 決算見込額 決算額 決算額 決算額 決算額 当初予算額 主な財源 OR3年度: OR4年度:

	I										
活動指標名	港湾計画改	訂の手続き				R3年度		R3年度 決算見込	進捗状況	<u>活動概要</u>	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	額合計	進抄1人儿	港湾計画改訂に向けた那覇港長期構想の策 定を行った。	
実績値	_	港湾計画 改訂に向 けた調整	港湾計画 改訂に向 けた調整	港湾計画 改訂に向 けた調整	港湾計画 改訂に向けた 那覇港長期構 想の策定	港湾計画改訂 後の環境アセ スの実施	20. 0%				
活動指標名						R3年度					
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
実績値								0	大幅遅れ	那覇港港湾計画改訂に係る港湾施設の配置計画等について、関係機関との調整がR3年度に概ね整い、那覇港長期構想の策定を行ったが、当初の目標年度であるH29年度での策定を	
活動指標名						R3年度				行うことが出来ず、進捗状況を「大幅遅れ」と判定した。	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
実績値											
(2)これる	<u> </u> までの改善案	L の反映状況			1		l	ı			
		令和3	年度の取組で	<b></b>						反映状況	
令和3年度の取組改善案 ・港湾計画改訂に向けた長期構想検討委員会開催に向け、那覇港管理組合構成団体間の合意形成に向けた取組を進める。								改訂に向けが	≿長期構想材	食計委員会を実施し、長期構想の取りまとめを	

## 様式1(主な取組)

## 3 取組の検証 (Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)	
〇内部要因	○外部環境の変化
・今後も那覇港における旅客者数の増加等が見込まれるため、観光地としての快 適な周辺環境の整備の重要性が増している	_
(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
・組み地としての <b>は海が国</b> 辺環境の敦備を実体するため、引き続き、関係機関との	1調敷を家に行い、日期の港流計画が訂た行う心更がある

## 4 取組の改善案(Action)

・国等の関係機関との調整を密に実施し、令和4年度以降における早期の港湾計画改訂に向けた取組を進める。

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	① 那覇港の整備						
心束皮用	3-(1)-7	八川・彻川を文える危信の登開	施策の小項目名	○那覇港の人流機能強化						
主な取組	那覇港人流機能	那覇港人流機能強化整備事業								
対応する 主な課題	ど利便性や快適			ていないため、利用者は炎天下や雨天時に移動を強いられるな 歯化とともに、安全性・快適性・利便性の確保など観光客の受						

#### 取組の概要 (Plan) 年度別計画 取組内容 H29 H30 R元 R2 R3 那覇港利用者の安全性・快適性・利便性の確保に向け、緑地や利便性向上施設 等の整備、クルーズ受入促進事業などを促進する。

緑地、みなとまちづくり、利便性向上施設等の整備 那覇港管理組合 実施主体 [098-866-2395] 担当部課【連絡先】 土木建築部港湾課

~ 4X/ILLV/	AKALOVANI (DO)											
(1) 取組の	D進捗状況						(単位:千円)					
予算事業名 那覇港人流機能強化関連事業												
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R44	丰度	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画			
エな別派	关心力法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: 浦添ふ頭東緑地の整備、及び泊港橋における る屋根付き歩道の設置を推進する。また、那覇港内にお			
一括交付									いて新型コロナウイルス感染症対策を実施する。			
金(ハー	委託	296, 689	100, 593	76, 816	12, 952	18, 576	30, 000	各省計上	OR4年度: 泊港橋における屋根付き歩道の設置を推進 する。また、那覇港内において新型コロナウイルス感染			
F)									症対策を実施する。			
予算事業名												
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R44	年度	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画			
土は別源	<b>美</b> 肥刀法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度:			
									OR4年度:			

#### 様式1(主な取組)

<u> </u>											
	緑地、みな の整備	とまちづくり	<b>り、利便性</b> 向	]上施設等		R3年度		R3年度	進捗状況	活動概要 浦添ふ頭東緑地の整備完了させたほか、新 型コロナウイルス感染症対策として、泊ふ頭	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	決算見込 額合計	進捗认沈		
実績値	利便性向上 に向けた整 備				利便性向上 に向けた整 備	利便性向上 に向けた整 備	100.0%			旅客ターミナルにおいて新型コロナウイルス 感染防止対策施設を整備した。	
活動指標名						R3年度					
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 浦添ふ頭東緑地の整備を完了させたほか、 新型コロナウイルス感染症対策として、泊ふ 頭旅客ターミナルにおいて感染防止対策施設	
実績値								18, 576			
活動指標名						R3年度				を整備しことにより、観光客や利用者の安全 性・快適性・利便性を向上させたとともに、 ウィズコロナに向けた整備に取り組んだ。	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			y   v   a · · y   a · · y   a · · · y   a · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
実績値											
(2)これま	きでの改善案										
		令和3	年度の取組さ	<b>收善案</b>			反映状況				

観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を考慮し、泊ふ頭における屋根付き歩 道や浦添ふ頭東緑地の整備を推進するほか、クルーズターミナルや泊ふ頭旅客 ターミナルにおいて、新型コロナウイルス感染症対策の取組を実施する。

- ・浦添ふ頭東緑地の整備を完了させたことにより、観光客・利用者の安全性・快 適性・利便性を向上させることができた。
- ・泊ふ頭地区の泊港橋においては、現在耐震補強工事を行っており、本工事完了 後に屋根付き歩道を設置する。
- ・ウィズコロナを見据えた感染対策防止に資する施設整備を実施した。

#### (1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

〇内部要因

〇外部環境の変化

・今後も那覇港における旅客者数の増加が見込まれるため、観光地としての快適な周辺環境の整備の重要性が増している。

・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和3年の沖縄県の入域観光客数は減 少数、減少率ともに過去最大となる等、足下では厳しい状況が続いている。

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・今後も引き続き観光客・利用者の安全性・快適性・利便性の確保に向けた施設整備を進めるとともに、那覇港内における新型コロナウイルス感染症対策を進める 必要がある。

#### 4 取組の改善案 (Action)

・観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を考慮し、泊ふ頭における屋根付き歩道の設置に必要な整備(橋梁耐震工事)を早期に完了させるとともに、新型コロ ナウイルス感染症対策の取組を実施する。

施策展開	3-(1)-1	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	① 那覇港の整備
心果皮用	3-(1)-7	八川・初川を文える危信の登開	施策の小項目名	〇那覇港の物流機能強化
主な取組	那覇港臨港道路	<b>B整備事業</b>		
対心する	おり、利便性の			-の混在、台風時及び冬季風浪時の港内波浪等が問題となって 帕の大型化に対応した岸壁やふ頭用地、上屋等の充実、港湾貨

# 1 取組の概要 (Plan)

		取組内容		年度別計画						
	那覇港と背後地を	うるいは那覇港との連携を図るとと	もに、国際交流・物流拠点	H29	H30	R元	R2	R3		
σ,		ので円滑な貨物輸送を確保するた に で で で で で で で で で で で で で で で で で で で		浦添線完了						
	実施主体	国、那覇港管	理組合	臨港道路(浦添	線、若狭港町線	)の改良、新規整	 ·備等			
担	3当部課【連絡先】	土木建築部港湾課								

#### 2 取組の状況 (Do)

2 取組の状況 (DO) (1) 取組の進捗状況 (単位:千円)												
の進捗状況						(単位:千F	円)					
5 臨港道路整	備事業											
中华士法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画				
.   夫肔力法 	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: 国において、那覇港の臨港道路(若狭港町線)の整備を推進した。				
								旅/ の金冊を推進した。				
その他	_	_	_	_	_	_	国直轄	OR4年度: 引き続き、国において、那覇港の臨港道路				
								(若狭港町線)の整備を推進する。				
3 那覇港臨港	道路整備事業	ŧ		•								
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R44	年度	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画				
.   美施力法 	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: 那覇港における港湾2号線改良(液状化対				
								策)工事を実施した。				
補助	25, 903	83, 524	106, 808	108, 652	245, 071	151, 883		OR4年度: 引き続き港湾2号線改良(液状化対策)を				
								実施し、緊急時の港湾貨物の円滑な輸送を確保する。				
1	の進捗状況 名 臨港道路整 注 実施方法 その他 名 那覇港臨港	の進捗状況 名 臨港道路整備事業 注 実施方法 H29年度 決算額 その他 - 名 那覇港臨港道路整備事業	の進捗状況 名 臨港道路整備事業	名 臨港道路整備事業       名 臨港道路整備事業       表 実施方法     H29年度 決算額 決算額 決算額       その他        名 那覇港臨港道路整備事業       実施方法     H29年度 決算額 決算額 決算額 決算額	名 臨港道路整備事業       名 臨港道路整備事業       表 実施方法     H29年度 決算額     H30年度 決算額     R元年度 決算額     R2年度 決算額       その他     -     -     -       名 那覇港臨港道路整備事業     H30年度 決算額     R元年度 決算額     R2年度 決算額	名 臨港道路整備事業       表 臨港道路整備事業       表 実施方法     H29年度 決算額     H30年度 決算額     R元年度 決算額     R2年度 決算額     R3年度 決算見込額       その他     -     -     -       名 那覇港臨港道路整備事業     H30年度 決算額     R元年度 決算額     R2年度 決算額     R3年度 決算額	(単位:千F	R				

	臨港道路( 規整備等	浦添線、若獲	夹港町線) <i>σ</i>	改良、新		R3年度		R3年度 決算見込	進捗状況	<u>活動概要</u>
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	額合計	進抄认沉	港湾2号線改良(液状化対策)を実施した。
実績値	臨港道路 の改良等				臨港道路 の改良等	臨港道路 の改良等	100. 0%			
活動指標名		•				R3年度				
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値								245, 071	順調	港湾2号線改良(液状化対策)を実施し、安全・安心な貨物輸送確保への進捗が図られ、 順調に取り組んだ。
活動指標名						R3年度				
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
実績値										
(2)これま	での改善案	の反映状況								
		令和3:	年度の取組さ	<b>攻善案</b>						反映状況
・国に対し 号線の整備		の事業実施を	要望すると	ともに、引	き続き臨港道				D早期整備を要望した。 適正な予算確保に努めた。	

## (1)推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

〇内部要因

〇外部環境の変化

・地震時の災害においても安全・安心な物資輸送、貨物輸送を確保するため、臨 港道路港湾2号線は緊急輸送道路に指定されている。

・令和元年度に新港ふ頭地区において総合物流センターが開業する等、臨港道路 港湾2号線における効率的で円滑な貨物輸送の重要性が高まっている。

## (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・臨港道路港湾2号線においては、国土交通省の防災・減災対策等強化事業推進費等を活用し、早期の整備完了に向けた取組を推進するとともに、円滑な貨物輸送 のため、国における若狭港町線の早期整備を要望する必要がある。

#### 4 取組の改善案 (Action)

・国に対し、計画通りの事業実施を要望するとともに、引き続き臨港道路港湾2号線の整備を推進する。

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	① 那覇港の整備
心束皮用	3-(1)-7	八川・初川で文人の苍鳥の笠浦	施策の小項目名	○那覇港の物流機能強化
主な取組	那覇港防波堤整	· #備事業		
対心りる 主か理期	おり、利便性の			一の混在、台風時及び冬季風浪時の港内波浪等が問題となって 舶の大型化に対応した岸壁やふ頭用地、上屋等の充実、港湾貨

1 取組の概要 (P	lan)									
		取組内容		年度別計画						
70 TE 144				H29	H30	R元	R2	R3		
			N防波堤の実現のため、防波堤 な港の整備を促進する。							
						防波堤の整備				
実施主体		<b>=</b>		l						
担当部課【連絡先】	土木建築	築部港湾課	[098-866-2395]					į į		

状況(Do)									
)進捗状況						(単位:千F	円)		
国直轄									
宝佐士注	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R44	年度	令和	口3年度活動内容と令和4年度活動計画
关心力広	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度:	防波堤(浦添第一)の整備を実施した。
その他	_	_	_	_	_	_	国直轄	OR4年度:	防波堤(浦添第一)の整備を推進する。
#+# #	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度		令和	口3年度活動内容と令和4年度活動計画
夫肔刀法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度:	
								OR4年度:	
	進捗状況 国直轄 実施方法	進捗状況 国直轄 実施方法 H29年度 決算額 その他 -	進捗状況 国直轄 実施方法 H29年度 決算額 その他	進捗状況 国直轄 実施方法 H29年度 H30年度 決算額 その他	進捗状況 国直轄    大学報	進捗状況 国直轄    大学報   H29年度	進捗状況   国直轄	進捗状況         国直轄         実施方法       H29年度 決算額	進捗状況       国直轄       実施方法 H29年度 決算額

活動指標名	防波堤の整	 備				R3年度		R3年度		<u>活動概要</u>	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	· 決算見込 額合計	進捗状況	防波堤 (浦添第一)	を整備した。
実績値	防波堤の 整備			•	防波堤の 整備	防波堤の 整備	100.0%				
活動指標名						R3年度					
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、	要因及び取組の効果
実績値								0			の整備を実施し、静隠 順調な整備進捗に取り
活動指標名						R3年度					
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
実績値											
(2)これま	での改善案	の反映状況									
		令和3:	年度の取組さ	收善案						反映状況	
		る「粘り強い 等の要望を行		整備を促進	するため、引		せたが、更た			と区間の整備を令和3年 D延伸に係る事業計画の	

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

#### 〇内部要因

・平成25年3月の「沖縄地方の港湾における防波堤の耐津波性能評価検討会」において、那覇港の第一線防波堤である新港第一防波堤の一部に安定性不足が確認されている。

#### 〇外部環境の変化

・東日本大震災を契機に、交通政策審議会港湾分科会防災部会において「港湾における総合的な津波対策のあり方」が取りまとめられ、港湾における防波堤においても「粘り強い防波堤」とすることを目指すことが示された。

・国における防波堤整備事業は一部完了しているが、依然として港内の静穏度の 確保が必要となっている。

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・新港ふ頭地区における「粘り強い防波堤」の整備を促進するため、防波堤整備の早期かつ着実な事業実施を要望していく必要がある。

#### 4 取組の改善案 (Action)

・新港ふ頭地区における「粘り強い防波堤」の整備を促進するため、引き続き国に対して防波堤の整備等の要望を行う。

施策展開	3-(1)-1	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	① 那覇港の整備
心果皮用	3-(1)-7	八川・初川を文える危信の登開	施策の小項目名	〇那覇港の物流機能強化
主な取組	那覇港物流機能	強化事業		
対心する	おり、利便性の			-の混在、台風時及び冬季風浪時の港内波浪等が問題となって 帕の大型化に対応した岸壁やふ頭用地、上屋等の充実、港湾貨

# 1 取組の概要 (Plan)

I AVAILONAS (I	Turi/							
	取組内容		年度別計画					
港湾施設の狭あい	化による利用効率の低下、船舶大	型化等に対応するため、那覇	H29	H30	R元	R2	R3	
	)機能再編の実施、岸壁等の港湾施							
±15 > 11		term (n. A	機能再編、貨物	物增大促進事業	及び岸壁等の整備	青		
実施主体	国、那覇港管	世組合						
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課	築部港湾課 【098-866-2395】						

#### 2 取組の状況 (Do)

2 取組の	状況(Do)								
(1) 取組 <i>の</i>	)進捗状況						(単位:千F	円)	
予算事業名	那覇港物流	機能強化事業	ŧ						
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R44	年度	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
土は別源	<b>美</b> 肥刀法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: 那覇港において既存施設延命化事業及び輸出貨物増大促進事業を実施した。
ー括交付 金(ソフ ト)	委託	28, 480	51, 917	0	14, 459	11, 887	19, 740		田貞物増入促進事業を実施した。   OR4年度: 引き続き、那覇港において既存施設延命化 事業及び輸出貨物増大促進事業を実施する。
予算事業名									
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	R4年 当初予算額	年度 主な財源	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画 OR3年度:
									OR4年度:

#### 様式1(主な取組)

I											
	機能再編、 等の整備	貨物増大促進	進事業、岸壁	き・物揚場	R3年度			R3年度 決算見込	進捗状況	<u>活動概要</u>	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	額合計	進抄认沉	既存施設延命化事業として、エプロン改修 工事等を実施した。また、荷主を対象とした 実証実験を実施し、物流コスト低減や輸送シ スムの改善等の検証を行った。さらに、航 路再編を行った外航船社への補助事業を実施 した。	
実績値	既存施設 延命化等			<b></b>	既存施設 延命化等	既存施設 延命化等	100. 0%				
活動指標名						R3年度					
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 那覇ふ頭地区において防食エエ事を行い、 岸壁の安全性が確保された。 また、令和元年度に新規開設された外航航	
実績値								11, 887	順調		
活動指標名						R3年度				路は令和3年度中も継続運航しており、取組 は順調である。	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
実績値											
(2)これま	(2) これまでの改善案の反映状況										

#### ・港湾関係者や関係機関と密に調整し、港湾施設の利便性向上や効率的で安全な 施設配置の検討を行っていく。 - 港湾

令和3年度の取組改善案

- ・既存施設の状態を適切に把握し、効率的な維持管理に努める。
- ・那覇港管理組合は、那覇国際コンテナターミナル(株)及び那覇港総合物流センター運営企業間による会議実施体制を検討し、国際コンテナターミナルの改善・高度化に向けた検討や、新型コロナウィルス感染拡大の影響下における取扱貨物の維持・増加に向けた取組を検討する。
- ・港湾施設利用における現状と課題の整理を行い、利用者のニーズや関心事を把握するため、港湾利用者のヒアリングを実施した。

反映状況

- ・施設の日常点検を行い、既存施設の状態を把握した。
- ・那覇港管理組合と那覇国際コンテナターミナル(株)との連絡会議において、貨物増加等に向けた各種取組のための会議を実施した。また、那覇港の取扱貨物量の維持・増加に向けて、船社等へのポートセールスを実施した。

#### (1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

#### 〇内部要因

- ・那覇港では、港湾施設の狭隘化による利用効率の低下、船舶の大型化や貨物船 及び旅客船・フェリーの混在が課題となっている。
- ・老朽化した港湾施設が多く存在しているため、効率的かつ効果的な維持管理を 行う必要がある。
- ・更なる国際航路の拡充を図るため、国際コンテナターミナルの改善・高度化や 船社ニーズに対応したインセンティブの検討が求められている。

#### 〇外部環境の変化

- ・東京、横浜、大阪、神戸の各港において周辺道路の混雑やドライバーの人手不 足などが課題となっており、輸送手段や発着港の転換を図るモーダルシフトなど の動きがある。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大による物流全体の需要低下や海上物流マーケットの高騰などにより、取扱貨物量の減少の可能性がある。

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・荷さばき地や上屋の移転等を含め、新港ふ頭において、効率性及び利便性の高い港湾施設の再編・適正配置を行う必要がある。
- ・安全かつ効率的な港湾施設利用のため、既存施設の延命化が必要である。
- ・那覇港管理組合、那覇国際コンテナターミナル株式会社及び関係機関間で取扱貨物量に対する課題を共有し、国際コンテナターミナルの改善・高度化や船社ニー ズに対応した効果的なインセンティブを検討することで、外部環境の変化の中においても、取扱貨物の維持・増加に努める。

#### 4 取組の改善案 (Action)

- ・港湾関係者や関係機関と密に調整し、港湾施設の利便性向上や効率的で安全な施設配置の検討を行っていく。
- ・既存施設の状態を適切に把握し、効率的な維持管理に努める。
- ・那覇港管理組合は、那覇国際コンテナターミナル(株) 及び那覇港総合物流センター運営企業間による会議実施体制を検討し、国際コンテナターミナルの改善・高 度化に向けた検討や、新型コロナウィルス感染拡大の影響等における取扱貨物の維持・増加に向けた取組を検討する。

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	① 那覇港の整備
心果皮用	3-(1)-4	<b>八川・初川で又たる彦湾の豊</b> 禰	施策の小項目名	○那覇港の物流機能強化
主な取組	那覇港産業推進	·防災事業		
対心する	おり、利便性の			一の混在、台風時及び冬季風浪時の港内波浪等が問題となって 舶の大型化に対応した岸壁やふ頭用地、上屋等の充実、港湾貨

1 取組の概要 (P	lan)							
	取組内容				年度別計画			
			H29	H30	R元	R2	R3	
生活基盤としての震化や長寿命化対策	D那覇港の機能維持・強化のために ξ等を推進する。	こ、旅客待合所、上屋等の耐		新港ふ頭4号 上屋延命化 (完了)	新港ふ頭5号 上屋延命化 (完了)		那覇ふ頭1、2号 上屋建替 (完了)	
実施主体	那覇港管理	里組合	船客待合所・上屋の延命化、耐震化及び建替え等の実施					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課	[098-866-2395]	ガントリークレーン延命化等の実施					

2 取組の	状況(Do)									
(1) 取組の	)進捗状況						(単位:千F	円)		
予算事業名	那覇港産業	推進・防災事	業							
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R44	丰度	令利	口3年度活動内容と令和4年度活動計画
土な財源	夫肔刀法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度:	那覇ふ頭上屋建替工事を実施した。
県単等	補助	408, 923	230, 363	135, 709	174, 305	404, 311	298, 893	N-T-13	OR4年度: るとともに、 事に取り組む	引き続き、那覇ふ頭上屋建替工事を推進す 新たに、新港ふ頭地区における上屋建替工 ご。

活動指標名	動指標名 船客待合所や上屋の耐震化、延命化等の実施 R3年度							R3年度	>#+ + (+ 1,4± > □	<u>活動概要</u>		
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	決算見込 額合計	進捗状況	那覇ふ頭地区において、上屋の建替工事に 実施した。		
実績値	船客待合所 の耐震改修 工事等の実 施	所、上屋の	上屋建替 設計の実 施	上屋建替 工事の実 施	上屋建替 工事の実 施	上屋建替 工事の実 施	88. 9%					
活動指標名	ガントリー	クレーン延命	命化対策事業	の実施		R3年度						
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果		
実績値	延命化対 策工事の 実施		-	延命化対 策工事の 完了	Ι	ı	100.0%	404, 311	順調	那覇ふ頭地区において、上屋の建替工事を 行ったことにより、施設の耐震化が推進され た。		
活動指標名 R3年度												
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B					
実績値												
(2)これま	での改善案	の反映状況										
		令和3	年度の取組	收善案			反映状況					
・老朽化し 指す。	た那覇ふ頭の	の上屋建替え	事業につい	ては、令和	3年度の事業				は、令和4年度上半期中の完了予定である。 新たに新港ふ頭地区の上屋建替事業に着手し			

## (1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

#### 〇内部要因

〇外部環境の変化

- ・上屋整備については、供用中のふ頭内で実施することから、荷役関係者等と工事のスケジュールや手順について連携を図る必要がある。
- ・荷役関係者より、上屋の建物老朽化による雨漏りや壁の剥落等で荷役作業に支 障が出ているとの意見がある。
- ・上屋の破損や動作不良等老朽化に関する緊急修繕が増えている。

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・施設の巡回パトロールを強化し、使用者等と連携して、不具合箇所の早期発見、早期解消に努める。

#### 4 取組の改善案 (Action)

・那覇ふ頭の上屋建替え事業については、令和4年度上半期の事業完了を目指す。

施策展開	3-(1)-1	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	② 中城湾港の整備							
心來政刑	3-(1)-4	八川・初川で文人の苍鳥の霊哺	施策の小項目名	○中城湾港の整備							
主な取組	港湾施設整備(中城港湾・新港地区)										
対応する主な課題	れており、物流 担や定期船航路	効率化や機能分担が不十分となっている。このため	、既に供用している 船の寄港回数が増加	貨物の多くが陸上輸送のかさむ那覇港から搬出入を余儀なくさる西ふ頭に加え、東ふ頭の早期供用や那覇港との適正な機能分加傾向にあることから、物流機能との共存を図るため、必要な							

## 1 取組の概要 (Plan)

	取組内容		年度別計画						
			H29	H30	R元	R2	R3		
	《の物流機能の強化を図るため 停泊する水域の浚渫)を促進	)東ふ頭の早期供用に向けた泊地 隻する。							
					事業完了				
実施主体		泊地浚渫							
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課	[098-866-2395]							

2 取組の	状況(Do)								
(1) 取組の	)進捗状況						(単位:千F	円)	
予算事業名	泊地浚渫								
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度		丰度	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
工。公科加尔	<b>头爬刀</b>	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: 国直轄により、中城湾港新港地区内の船舶が接岸・停泊する水域(航路泊地)の浚渫を行った。
国直轄	その他	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	OR4年度: 国直轄により、中城湾港新港地区内の船舶が接岸・停泊する水域における新たに追加した事業区間 (航路泊地)の浚渫を行う。

H29年度   H30年度   R元年度   R2年度   実績値 (A)   目標値 (B)   達成割合   A/B   接合計   接岸・停泊する水域 (新 岩	活動指標名	泊地浚渫					R3年度		R3年度	進捗状況	<u>活動概要</u>
泊地浚渫 泊地浚渫 泊地浚渫 泊地浚渫 泊地浚渫 泊地浚渫 泊地浚渫 100.0%   R3年度   R2年度   実績値   R元年度   R2年度   実績値 (A) 目標値 (B)   達成割合   A/B		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)			進捗认沈	国において、中城湾港新港地区内の船舶が 接岸・停泊する水域(航路泊地)の浚渫を進
H29年度	実績値	泊地浚渫	泊地浚渫	泊地浚渫	泊地浚渫	泊地浚渫	泊地浚渫	100. 0%			めた。
実績値     R29年度 R30年度 R30年度 R2年度 R2年度 R3年度     R3年度       活動指標名       R3年度 R3年度 R3年度 R3年度 Ex積値 (A) 目標値 (B) 達成割合 A/B     株式学 (B) 達成割合 A/B       (2)これまでの改善案の反映状況	活動指標名				•		R3年度				
T動指標名   R3年度   R3年度   R3年度   R3年度   B		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)				進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
R3年度	実績値								0	順調	国において、計画を進めており、順調と判断した。中城湾港新港地区内の泊地浚渫を行うことにより、船舶航路の安全が図られ、多様な船舶の岸壁利用に繋がることから取扱貨
実績値	活動指標名						R3年度				物量の増加が見込まれる。
(2)これまでの改善案の反映状況		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)				
1	実績値										
令和3年度の取組改善案 反映状況	(2)これる	までの改善案	の反映状況			-					
			令和3	年度の取組	<b>改善案</b>						反映状況
・県としては、引き続き、国に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図 る。 ・国に対し早期整備等の要望を適宜行うなど事業の促進を図		は、引き続	き、国に対し	.早期整備等	の要望を行	うなど事業 <i>0</i>					

## 様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)	
(1)推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)	
<ul><li>○内部要因</li><li>─</li></ul>	<ul><li>○外部環境の変化</li><li>─</li></ul>
(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
・国に対し、事業着手している泊地浚渫の早期整備を図り、順次、東ふ頭計画岸壁	色の整備を要望する必要がある。
4 取組の改善案 (Action)	

・県としては、引き続き、国に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	② 中城湾港の整備
<b>ル</b> 東展開	3-(1)-4	人派・初派を又んる冷渇の登禰	施策の小項目名	〇中城湾港の整備
主な取組	クルーズ船の受	入体制の構築		
対心する 土 た理期	れており、物流	効率化や機能分担が不十分となっている。このため	、既に供用している	貨物の多くが陸上輸送のかさむ那覇港から搬出入を余儀なくさる る西ふ頭に加え、東ふ頭の早期供用や那覇港との適正な機能分加傾向にあることから、物流機能との共存を図るため、必要な

n)									
取組内容		年度別計画							
おいて、大型クルーズ船の寄		H29	H30	R元	R2	R3			
傾向にあることから、大型ク	ルーズ船の寄港に向けた航行								
安全の検討及び、持続可能な受入体制の構築を図る。									
<b></b>	Į	共体可能 かぶつ	仕生の基質						
土木建築部港湾課			持続り能な安人体制の構架						
	取組内容 おいて、大型クルーズ船の寄 傾向にあることから、大型ク 可能な受入体制の構築を図る 『	取組内容 おいて、大型クルーズ船の寄港要請があり、また、クルー 傾向にあることから、大型クルーズ船の寄港に向けた航行 可能な受入体制の構築を図る。 県	取組内容 おいて、大型クルーズ船の寄港要請があり、また、クルー傾向にあることから、大型クルーズ船の寄港に向けた航行可能な受入体制の構築を図る。 県 おいて、大型クルーズ船の寄港に向けた航行で乗り、	取組内容 おいて、大型クルーズ船の寄港要請があり、また、クルー 傾向にあることから、大型クルーズ船の寄港に向けた航行 可能な受入体制の構築を図る。	取組内容 年度別計画 おいて、大型クルーズ船の寄港要請があり、また、クルー 傾向にあることから、大型クルーズ船の寄港に向けた航行可能な受入体制の構築を図る。	取組内容     年度別計画       おいて、大型クルーズ船の寄港要請があり、また、クルー傾向にあることから、大型クルーズ船の寄港に向けた航行可能な受入体制の構築を図る。     H29 H30 R元 R2       大型クルーズ			

#### 2 取組の状況 (Do) (1) 取組の進捗状況 (単位:千円) 予算事業名 港湾調査費 R4年度 令和3年度活動内容と令和4年度活動計画 R3年度 決算見込額 H29年度 H30年度 R元年度 R2年度 主な財源 実施方法 決算額 決算額 決算額 決算額 OR3年度: 持続可能なクルーズ船の受入体制の構築を 当初予算額 主な財源 図った。 OR4年度: 持続可能なクルーズ船の受入体制の構築を 図る。 県単等 委託 22, 053 0 0 0 予算事業名 R4年度 令和3年度活動内容と令和4年度活動計画 R3年度 決算見込額 H29年度 H30年度 R元年度 R2年度 主な財源 実施方法 決算額 決算額 決算額 決算額 当初予算額 主な財源 OR3年度: OR4年度:

活動指標名	持続可能な	受け入れ体制	制の構築			R3年度			進捗状況	<u>活動概要</u>	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	決算見込 額合計		H30年より大型クルーズ船を受け入れるにあたり、中城湾港新港地区クルーズ船岸壁割当	
実績値	大型クルー ズ船の航行 安全検討	大型クルー ズ船の受入 体制の構築	大型クルー ズ船の受入 体制の構築	大型クルー ズ船の受入 体制の構築	大型クルー ズ船の受入 体制の構築	大型クルー ズ船の受入 体制の構築	100.0%			の岸壁予約の基本方針の見直しを行った。	
活動指標名						R3年度					
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
実績値								0	順調	R2年(暦年)の中城湾港新港地区の寄港回数は、新型コロナウイルスの影響により2回、R3年は0回であるが、R4年の予約数は33回(1月時点)入っていることから順調とした。	
活動指標名										月時点が入りていることから順調とした。	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
実績値											
(2)これま	での改善案	の反映状況								•	
		令和3	年度の取組	收善案		反映状況					
・持続可能: 能と人流( <sup>・</sup>		の受入体制 <i>の</i> 機能の共存を		ため、中城	弯港新港地區						

## (1)推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

〇内部要因

〇外部環境の変化

・持続可能なクルーズ船受入体制の構築を図るため、中城湾港新港地区の物流機 能と人流(クルーズ)機能の共存を図る。

・クルーズ需要の高まりを踏まえ、中城湾港新港地区への寄港要請が増大していたが、新型コロナウイルス感染症により寄港回数が減少した。

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・中城湾港新港地区の物流機能と人流(クルーズ)機能の共存を図りつつ、新型コロナウイルス感染症の動向を見守る必要がある。

#### 4 取組の改善案 (Action)

・持続可能なクルーズの受入体制の構築を図るため、中城湾港新港地区の物流機能と人流(クルーズ)機能の共存を図る。

施策展開	3-(1)-1	人流・物流を支える港湾の整備 -	施 策	② 中城湾港の整備							
<b>他</b> 東展開	3-(1)-4		施策の小項目名	〇中城湾港の整備							
主な取組	中城湾港(泡瀬	中城湾港(泡瀬地区)の整備									
対応する主な課題	れており、物流 担や定期船航路	対率化や機能分担が不十分となっている。このため	、既に供用している 船の寄港回数が増加	貨物の多くが陸上輸送のかさむ那覇港から搬出入を余儀なくさる西ふ頭に加え、東ふ頭の早期供用や那覇港との適正な機能分加傾向にあることから、物流機能との共存を図るため、必要な							

1 取組の概要 (P	lan)									
	取組内容		年度別計画							
			H29	H30	R元	R2	R3			
	☑の浚渫土砂を活用した埋立てによ □ことを目的とし、護岸整備、浚渫		護岸設置・埋 立			<del></del>	$\rightarrow$			
実施主体		₹	埋立事業(国:86ha、県:9ha)							
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課									

2 取組の	状況(Do)				_					
(1) 取組の	D進捗状況						(単位:千円)			
予算事業名 沖縄振興公共投資交付金 (港湾)										
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R44	年度	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
土は別源	<b>美</b> 肥刀広	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度:緑地護岸(約140m)、養浜(2.8万m3)の整備を行った。	
一括交付 金 (ハー ド)	直接実施	567, 643	1, 141, 915	1, 186, 353	757, 298	799, 401	139, 680	一括交付 金 (ハー ド)	で13つた。 OR4年度:緑地駐車場の圧密沈下対策のため載荷盛土 (約1万m3) を行う。	
予算事業名	社会資本整	備総合交付金	金(泡瀬工区	()						
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R44	年度	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
土は別源	<b>美</b> 肔刀広	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度:橋梁上部工の桁製作(112個)、現場打ち桁 (6基)、架設(約114m)の整備を行った。	
内閣府計	直接実施	2, 376, 439	2, 393, 789	1, 717, 236	2, 549, 774	3, 519, 088	2, 864, 306	内閣府計 上	(0巻) 、未設 (新月刊III) の整備を行うた。 OR4年度:橋梁上部工の桁製作(48個)、現場打ち桁(9 基)、架設(約670m)の整備を行う。	

活動指標名	護岸設置・					R3年度		R3年度		<u>活動概要</u>		
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	· 決算見込 額合計	進捗状況	緑地護岸(約140m)及び養浜(約2.8万m3) の整備を行った。		
実績値	突堤及び 護岸基礎 整備	護岸部分 地盤改良 及び護岸 基礎整備	護岸基礎整備	護岸整備	護岸整備	護岸整備	100. 0%			橋梁上部工の桁製作(112個)、現場打ち桁 (4基) 、架設(約70m)の整備を行った。		
活動指標名						R3年度						
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果		
実績値								4, 318, 489	順調	国事業における進捗率は約70%(完成面積 ベース)、県事業における進捗率は60%(事業費 ベース)となっている。海上工事の期間に制約 があること等から事業計画を見直し埋立竣功		
活動指標名	指標名 R3年度									を令和11年度と変更したところであるが、計画のとおり埋立に向けて護岸整備を行ってい		
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			ることから順調と判断した。 取組完了後の効果として、スポーツコンベ		
実績値										ンション拠点の形成が図られ、本島中部東海 岸地域の活性化が期待される。		
(2)これま	での改善案	の反映状況										
		令和3	年度の取組さ	收善案			反映状況					
・債務負担行為の活用や効率的な工程計画により整備を推進する。 ・県民に対し、事業に対する理解の向上を図るため、引き続き、国や沖縄市等と 連携し、人工海浜でのレクリエーションなど、イベント利用等を行う。							・国と連携して、早期整備、部分使用に向けた工程計画の検討を継続的に行っている。  ・当該事業に関する関心喚起、理解度向上を目的に、国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのイベント(「海の日イベント」)開催を予定していたが、新型コロナウィルスの影響からイベントに代わり、事業のPR新聞広告やテレビ特別番組放送を沖縄市が行った。					

5 共産の技能(61166代)	
(1)推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
〇内部要因	<u>〇外部環境の変化</u>
	・土地利用計画の見直しに伴い港湾計画変更の手続きを行っている。
_	・埋立事業について、地元の沖縄市等から早期整備の強い要請がある。
	・年度当初の4月~7月は、トカゲハゼの繁殖時期のため、海上工事を行わないなど、環境に配慮した整備を行っている。

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・工事期間が短いこと、多数の工事が混在することと等を踏まえ、早期整備に向けた効率的、効果的な整備推進が必要である。
- ・事業を円滑に推進するため、県民に対し、当該事業に関する関心喚起や理解度向上を図る必要がある。

#### 4 取組の改善案 (Action)

- ・債務負担行為等を活用した効率的な工程計画により整備を推進する。
- ・県民に対し、事業に対する理解の向上を図るため、引き続き、国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのレクリエーションなど、イベント利用等を行う。

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	③ 圏域の拠点港湾等の整備
心果成用	3-(1)-4		施策の小項目名	_
主な取組	石垣港の整備			
		る交流拠点である本部港(北部)、平良港(宮古) ルーズ船の寄港・就航を促進するための旅客船バー		においては、国際的な観光リゾート地としての基盤強化を図 がある。

1 取組の概要 (P	lan)											
		取組内容				年度別計画	別計画					
				H29	H30	R元	R2	R3				
	│ 八重山圏域の交流拠点である石垣港において、国際的な観光リゾート地としての基盤強化を図るため大型旅客船ターミナル整備事業を推進する。							>				
実施主体		国、石垣市		八里派百万一	・ 主小台グーン / ル 走備 サーニー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・							
担当部課【連絡先】	土木建築	築部港湾課	[098-866-2395]	第2クルーズバース岸壁等の整備に向けた取組								

の状況(Do)								
1の進捗状況						(単位:千F	円)	
名 石垣港港湾	改修事業							
中华士士	H29年度	9年度 H30年度 R元年度 R2年度 R3年度		R3年度	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
关	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: 国直轄において、大型旅客船ターミナル整備を行った。
その他	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	OR4年度: 国直轄において、大型旅客船ターミナル整備を行う。
								1 (押で1) ノ。
名								
中华士士	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R44	年度	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
· 关心力法	決算額	決算額	決算額			当初予算額	主な財源	OR3年度:
								OR4年度:
	東施方法	田の進捗状況 名 石垣港港湾改修事業 原 実施方法 H29年度 決算額 その他 国直轄 名	田の進捗状況 名 石垣港港湾改修事業 原 実施方法 H29年度 決算額 その他 国直轄 国直轄 名	田の進捗状況 名 石垣港港湾改修事業 原 実施方法 H29年度 H30年度 決算額 その他 国直轄 国直轄 国直轄 日 実施方法 H29年度 H30年度 R元年度 決算額 その他 国直轄 国直轄 日 国直轄 日 国直轄 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	田の進捗状況 名 石垣港港湾改修事業  東施方法 H29年度 H30年度 決算額 決算額 決算額	田の進捗状況 名 石垣港港湾改修事業  東施方法 H29年度 H30年度 決算額 R元年度 決算額 決算額 決算額	田の進捗状況 名 石垣港港湾改修事業 東施方法 H29年度	田の進捗状況 名 石垣港港湾改修事業 東施方法 H29年度 決算額 R元年度 決算額 R3年度 決算額 主な財源 その他 国直轄

活動指標名	大型旅客船	ターミナル割	整備等			R3年度		R3年度		活動概要				
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	決算見込 額合計	進捗状況	国において、大型旅客船ターミナル整備事 業として岸壁等の整備を行っている。今和2				
実績値	ターミナル整備	ターミナル整備	ターミナル整備	ターミナル整備	ターミナル整備	ターミナル整備	100.0%			年度に岸壁が完成し、第2クルーズ岸壁等の 整備検討に向けても取り組んでいる。				
活動指標名	第2クルース	(岸壁等の整	備に向けた	取組		R3年度								
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果				
	整備検討	整備検討	整備検討	整備検討	整備検討	整備検討	100.0%	0	川民山町	国おいて、大型旅客船ターミナル整備事業 等を計画通りに進めており、順調と判断し た。				
活動指標名		•	•			R3年度								
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B							
実績値														
(2)これま	での改善案	の反映状況												
		令和3年	年度の取組	<b>女善案</b>			反映状況							
・県としてI 進を図る。	よ引き続き、	国や石垣市	「に対し早期	整備等の要	望を行うなと	・国に対し	早期整備等6	)要望を適宜	官行うなど事業の促進を図った。					

## 様式1(主な取組)

#### 3 取組の検証 (Check)

3 収配の検証(Gleck)									
(1)推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)								
〇内部要因	<u>〇外部環境の変化</u>								
_	_								
(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)									
(2) 政告示地の検証(収益の対象の更なる同工の抗点)									
・県としては引き続き、国や石垣市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。									

## 4 取組の改善案 (Action)

・県としては引き続き、国や石垣市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。

	施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	③ 圏域の拠点港湾等の整備
ル也	心來放開			施策の小項目名	_
	主な取組	平良港の整備			
			・る交流拠点である本部港(北部)、平良港(宮古) ・ルーズ船の寄港・就航を促進するための旅客船バー		においては、国際的な観光リゾート地としての基盤強化を図 がある。

I 収組の概要(F	Tan)							
	取組内容		年度別計画					
			H29	H30	R元	R2	R3	
	国際的な観光リゾート地とし とな耐震強化岸壁整備事業を低	ノての基盤強化を図るため国際ク ■ 進まる	港湾計画改定手続き					
ル 入船が奇を引用	3.4 剛辰強化片至走帰事末で以	E E y る。	岸壁·臨港道路整備 R2供用開始					
実施主体	国、宮石	古島市、民間	ターミナルビル整備	備 R2供用開始		]		
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課	[098-866-2395]	耐震強化岸壁整備	、ふ頭用地、臨港道	直路・緑地等の整備			

2 取組の	状況(Do)											
(1) 取組 <i>の</i>	)進捗状況						(単位:千円)					
予算事業名 平良港港湾改修事業												
主な財源	→ たみは			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画			
土は別源	実施方法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: 国直轄において、国際クルーズ船が寄港可能な対象機が開発の製造を実施した。			
国直轄	その他	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄		能な耐震強化岸壁の整備を実施した。 〇R4年度: 国直轄において、国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁の整備を実施する。			
予算事業名												
→ +> B+ 1/E	<b>=</b> *+*	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R44	年度	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画			
主な財源	実施方法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度:			
									OR4年度:			

活動指標名	活動指標名 港湾計画改訂手続き					R3年度			\# \L\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	活動概要		
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	決算見込 額合計	進捗状況	国において、国際クルーズ船が寄港可能な 耐震強化岸壁整備等を実施した。また、国際		
実績値	検討実施	検討実施	検討実施	検討実施	検討実施	検討実施	10. 0%			旅客船拠点形成港湾として、岸壁等の整備を 進めている。		
活動指標名	活動指標名 岸壁・臨港道路整備				R3年度							
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 令和2年度にターミナルビル整備が完了 し、岸壁の暫定供用もなされており、国において計画的に進捗がなされていること、ま		
実績値	整備実施	整備実施	整備実施	整備実施	整備実施	整備実施	100.0%					
活動指標名	ターミナル	ビル整備				R3年度		0		た、宮古島市において、旅客受入施設の整備 を進めていることから、概ね順調と判定し た。		
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	0	概ね順調	本取組を実施することにより、宮古圏域に おけるクルーズ船寄港回数及び旅客数の増加 が図られ、地元への経済波及効果が期待され る。		
実績値	1	計画策定	計画策定	整備実施	1	1	100.0%					
活動指標名	耐震強化岸壁整備、ふ頭用地、臨港道路・緑 地等の整備					R3年度						
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B					
実績値	整備実施	整備実施	整備実施	整備実施	整備実施	整備実施	100.0%					

## 様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況									
令和3年度の取組改善案	反映状況								
・県としては、引き続き、国や宮古島市に対し早期整備等の要望を行うなど事業 の促進を図る。	・国に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図った。								

## 様式1(主な取組)

## 3 取組の検証 (Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)							
○外部環境の変化							
_							
早期整備等を要望する必要がある。							

# 4 取組の改善案 (Action)

・県としては、引き続き、国や宮古島市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。

施策展開	3-(1)-イ	人流・物流を支える港湾の整備	施 策	③ 圏域の拠点港湾等の整備						
<b>旭</b> 東展開	3-(1)-7	八川・初川を文人の苍鳥の豊浦	施策の小項目名	_						
主な取組	金武湾港の整備									
対心する 土 た理期	れており、物流	効率化や機能分担が不十分となっている。このため	、既に供用している	貨物の多くが陸上輸送のかさむ那覇港から搬出入を余儀なくさる る西ふ頭に加え、東ふ頭の早期供用や那覇港との適正な機能分加傾向にあることから、物流機能との共存を図るため、必要な						

## 1 取組の概要 (Plan)

	取組内容		年度別計画						
平安座南地区にお	いて、金武湾、中城湾両港を行き	来する游海活動やもずくの	H29	H30	R元	R2	R3		
	南北に頻繁に往来している小型船		航路浚渫			$\longrightarrow$	供用開始		
め、航路の整備を行	<b>う</b> 。		航路浚渫 平安座南地区						
実施主体	臨港道路全長 420m		$\longrightarrow$						
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課	[098-866-2395]	臨港道路の整	備 天願地区					

#### 2 取組の状況 (Do)

と 収配の	2 取租の状況(U6)												
(1) 取組の	(1) 取組の進捗状況								(単位:千円)				
予算事業名	予算事業名 金武湾港(平安座南地区)港湾改修事業												
→ +、D.1.7E	☆ B H A B H A B A B A B A B A B A B A B A		R2年度	R3年度	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画						
主な財源	実施方法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: 平安座南地区において、航路浚渫の工事を				
ー括交付 金 (ハー ド)	直接実施	121, 180	164, 311	103, 568	85, 339	127, 156	5, 000		実施した。 OR4年度: 平安座南地区において、航路浚渫の工事を 継続実施する。				
予算事業名	金武湾港(	天願地区)港	き湾改修事業	<u> </u>									
→ +、 <b>□</b> ± %=	<b>н</b> *+;	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画				
主な財源	実施方法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: 工事の実施に向け、関係機関との調整を 行った。				
ー括交付 金 (ハー ド)	直接実施	1, 430	_	_	_	_	5, 000		OR4年度: 臨港道路の工事実施に向けた調整を継続する。				

	ı									1	
活動指標名	舌動指標名 航路浚渫 平安座南地区					R3年度	R3年度 決算見込		進捗状況	活動概要	
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	額合計	<b>延沙1</b> 人儿	平安座南地区において、航路浚渫の工事を 実施し、事業の進捗を図った。	
実績値	航路浚渫	航路浚渫	航路浚渫	航路浚渫	航路浚渫	航路浚渫	100.0%			テ願地区においては、関係機関調整に不測の日数を要した。	
活動指標名	臨港道路の	整備 天願均	也区	•		R3年度					
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
実績値	_	_	_	関係機関調整	関係機関調整	調整完了	50. 0%	127, 156	概ね順調	平安座南地区において、もずくの収穫時期 等に配慮して工事期間を制限して実施した。 航路浚渫の工事を実施し、暫定供用を開始す るなど事業の進捗を図った。 天願地区においては、今後の円滑な工事の 実施に向け、関係機関調整を行った。 2地区の進捗状況を勘案し、概ね順調と判 断した。	
活動指標名						R3年度					
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
実績値											
(2)これま	までの改善家	の反映状況									
		令和3	年度の取組	改善案			反映状況				
月から9月と 安全対策を	<ul><li>・平安座南地区の航路整備について、もずくの収穫時期等に配慮して工事時期を5 目から9月と制限して実施するとともに、工事の周知や作業区域の明示など適切な 安全対策を行い、海洋利用者の安全に配慮する。</li><li>・無願埋立について国と協議しながら早期の解決を図る。</li></ul>							と制限して記	実施すると。	て、もずくの収穫時期等に配慮して工事時期を ともに、工事の周知や作業区域の明示など適切 安全に配慮し、事業を推進した。	

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

〇内部要因

〇外部環境の変化

・道路計画地の一部に国有海浜地があり、対応方針の検討が必要である。

・平安座南地区の航路整備について、事業箇所付近のモズク養殖場や、事業箇所 周辺のマリンスポーツや潮干狩りなど海洋利用者の状況について、適宜確認する 必要がある。

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・平安座南地区の航路整備について、もずく養殖場や海洋利用者など周辺環境への影響を極力抑えながら事業の進捗を図る必要がある。
- ・無願埋立については、関係機関と対応方針について協議する必要がある。

#### 4 取組の改善案 (Action)

- ・平安座南地区の航路整備について、もずくの収穫時期等に配慮して工事時期を5月から9月と制限して実施するとともに、工事の周知や作業区域の明示など適切な 安全対策を行い、海洋利用者の安全に配慮する。
- ・国有海浜地部分の施工箇所について国と協議しながら早期の解決を図る。